施策２　自ら学ぶ生涯学習の推進

（目指す姿：市民は、身近なところで必要な知識や技術を学ぶことができ、学んだことを社会生活に活かしたり、生きがいを持って暮らしている。）

①十分な成果が見られ、達成している ・ ②一定の成果が見られ、概ね達成している ・ ③一定の成果は見られるものの、やや不十分な部分も多い ・ ④成果が乏しく、改善を要する

評価：

《判断の根拠》

《改善点》

《改善点についての対応》

目標達成のための成果指標

成　果　指　標	基準値	実績値					目標値	調査方法
	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	
仕事や学校以外で、何らかの知識や技術を身に付けるための取組をしている市民の割合	27.9%	30.0%	30.0%	27.6%	26.6%	29.4%	50.0%	総合計画 市民意向調査
市立公民館の年度利用者数	701,903人	635,310人	423,883人	451,408人	559,491人	610,780人	750,000人	公民館支援課調べ
現在、生涯学習（自分の生活や能力を高めるための、学習やスポーツ、文化活動［趣味・教養を含む］、ボランティア活動等）を行っている市民の割合	23.1%	25.3%	28.4%	25.4%	33.2%	34.0%	40.0%	教育政策市民満足度調査（一般）
生涯学習を行っている市民のうち、学習の成果を活かした活動を行っている市民の割合	47.1%	45.8%	32.2%	46.7%	34.1%	32.0%	60.0%	教育政策市民満足度調査（一般）
市立図書館のサービス（分館等含む）が充実していると思う市民の割合	60.3%	65.9%	65.8%	63.1%	65.2%	62.6%	65.0%	教育政策市民満足度調査（一般）

重点的に取り組んだ事業

［基本事業3］ 図書館利用の推進

３－１　図書館大規模改修事業　　＜自己評価＞概ね達成

（目標）
図書館本館は、開館から28年が経過し、建築物や設備の劣化等による不具合が生じている。
全体的な改修により、単に本を読む、借りる、学ぶだけでなく、誰にとっても開放的で居心地の良い空間を提供し、人が集う場所としての新しい図書館のコンセプト「SAGA LIBRARY PARK」を実現する。

（取組）
令和5年度は、大規模改修にかかる「基本構想・基本計画」の素案を策定した。

1. 市民ニーズの把握
（1）市民意向調査　（無作為抽出の18歳以上の市民5,000人を対象。有効回答数1,135人）
（2）図書館利用者アンケート　（館内、インターネットで実施。回収数348件）
（3）「さが未来発見塾 in 佐賀市」　（佐賀新聞社主催企画。佐賀西、佐賀北、佐賀清和の高校生16名が参加）
（4）メッセージボードによる意見収集　（本館、青少年センターに設置。掲示数487件）
（5）街頭ヒアリング　（3回実施《佐賀駅前、バスセンター、どん3イベント》、計200人）
（6）ワークショップイベント　（2回開催、延べ34人が参加）

2. 基本構想・基本計画策定委員会による協議
外部有識者等7名で委員会を構成　（5回開催）

3. 市組織における協議
（1）市長への報告と協議　（13回）
（2）副市長以下関係部署による会議　（8回）
（3）職員がアイデアを自由に出し合うブレインストーミングの実施　（8回）

（成果指標）	R3成果	R4成果	R5成果	R5目標	調査方法
大規模改修にかかる基本構想・基本計画の策定	－	－	素案の策定	素案の策定	事務作業の管理

【参考】今後のスケジュール
〇令和6年度
（1）「基本構想・基本計画案」に対するパブリックコメントの実施
（2）設計業務
〇令和7年度以降
（1）設計業務
（2）工事期間中の特別運用
（3）改修工事

３－２　電子図書館システム試験導入事業

＜自己評価＞達成

（目標）

主に子ども達を対象として「図書館や紙の書籍の利用が難しい市民へのサービス拡充」と「郷土関連資料（郷土資料・行政資料・市民の学習成果等）を、市民が利用しやすい形で収集・整理・公開する」ことを目的とした【佐賀市電子図書館】を試験導入する。

（取組）

1．学校での活用に向けた取り組み

・令和5年5月の校長会、同年6月の佐賀市教育情報化推進リーダー研修会で電子図書館に関して説明

・一人一台端末へのショートカット配信、一人一台端末のID/PASSで電子図書館にログイン可能な仕組みを構築

2．商用電子書籍の調達

・佐賀市立図書館の司書（児童サービス担当）が選書した資料を提供

・初期導入450点＋毎月5～10点程度調達　559点／令和5年度末時点）

3．郷土関連資料の収集・整理・公開

・佐賀市史や旧町村史、古地図等の郷土資料、環境教育や東名遺跡関連資料、デジタル図鑑等の学習に役立つ資料、「手づくり絵本コンクール」「調べる学習地域コンクール」の入賞作品等の市民や子ども達の学習成果を公開　（1，062点／令和5年度末時点）

4．外部資金の活用

・㈱佐賀銀行を通じた㈱エンターアイによる寄付を活用し、音声付の昔話・童話関係資料33点を購入（一部は日本語/英語切替対応）

（成果指標）	R3成果	R4成果	R5成果	R5目標	調査方法
サービス開始（令和5年6月）	－	－	サービス開始	サービス開始	
商用電子書籍の蔵書回転率	－	－	11.70	2.51（R3年度の児童書（紙）の回転率と同等）	業務統計データの取得
郷土関連資料の蔵書回転率	－	－	3.53	1.00（R3年度の地域書籍の回転率：0.11）	業務統計データの取得

【課題】

・学校や学年ごとの利用率に差があること

・限られた予算の中で運用するため、電子書籍の特性や利用率を考慮した選書、外部資金の積極的な活用を行っていく必要があること

【参考】今後のスケジュール

・学校での利用実態や要望を把握するためのアンケート（教職員対象）を実施予定

・令和7年5月までの試験導入終了後の運用方針を策定したい。（令和6年9月頃）